

形成外科

○ 形成外科の概要

1. 形成外科の特色

当院における形成外科の役割は、主に腫瘍の切除もしくは外傷などによって失われた組織を、形態的、機能的にできるだけ正常に近く再建する再建手術が主体になる。包括的がんセンターにおいては、頭頸部腫瘍科、乳腺腫瘍科、骨軟部腫瘍科、婦人科腫瘍科、消化器外科等と合同手術を行い、腫瘍切除後の欠損に対して再建術を行っている。心臓病センターにおいては、心臓手術後の縦隔炎や胸骨骨髓炎に対する再建術、下肢などの難治性潰瘍に対する加療を行っている。また、救命救急センターにおいては、外傷や熱傷に対する再建術を行っている。

以上のように、遊離組織移植術、有茎組織移植術、植皮術といった再建手術数は非常に多く、特にマイクロサージャリーの技術を用いた遊離組織移植術は年間 50 例以上の症例数を誇る。そのみならず腫瘍切除術、瘢痕形成術等幅広い手術に対応しており、様々な手技を学ぶことが可能である。

また、当院は日本形成外科学会認定施設でもある。

2. 診療実績（手術件数）

外傷：21 件

腫瘍：189 件

先天異常：1 件

瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド：12 件

難治性潰瘍：21 件

炎症・変性疾患：11 件

その他：20 件

計 275 件

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医（指導者）

研修責任者：去川 俊二（診療部長）

臨床研修指導医：横川 秀樹

4. 臨床研修プログラムの特色

皮膚を素早く、かつ美しく縫合することは、外科系を目指す研修医にとって必須の手技である。当科では、皮弁採取部の縫合など、縫合する機会が非常に多く、縫合の基本から美しく仕上げるコツまで丁寧に指導する。また、他施設ではなかなか接する機会の少ない遊離皮弁術についても、適応、皮弁の選択、マイクロサージャリーによる血管吻合の実際について学んでいただき、さらに人工血管を用いてマイクロサージャリーの練習を行うことも可能である。

5. 経験目標・到達目標

皮膚を素早く、かつ美しく縫合できること。

様々な遊離皮弁術、有茎皮弁術、植皮術について、手技および適応、術後管理について理解すること。

到達目標と評価表（1ヶ月間研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 皮膚の美しい縫合ができる。	()	()
2. 再建手術で多用される遊離皮弁、有茎皮弁について理解する。	()	()
3. マイクロサージャリーの基礎を理解する。	()	()
4. 創部や皮弁の術後管理および緊急時の対応を学ぶ。	()	()

到達目標と評価表（2ヶ月目以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 皮膚の素早く、かつ美しい縫合ができる。	()	()
2. 欠損に応じた皮弁の適応について、自分なりに評価できる。	()	()
3. 術後の創部や皮弁の状態を評価でき、緊急時には速やかに上級医に連絡できる。	()	()

- | | | |
|---------------------------------|-----|-----|
| 4. 練習用の顕微鏡を用いて、人工血管の縫合ができる。 | () | () |
| 5. 植皮術、リンパ節生検、良性腫瘍切除等、小手術を経験する。 | () | () |

6. 週間スケジュール

月：午前 手術	午後 手術・外来・病棟
火：午前 病棟・手術	午後 手術・カンファレンス
水：午前 外来	午後 外来・病棟
木：午前 外来	午後 病棟・褥瘡回診
金：午前 手術	午後 手術・病棟・カンファレンス
土：午前 外来	午後 病棟

7. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
埼玉医科大学国際医療センター 包括的がんセンター
形成外科 去川 俊二 (診療部長、准教授)
TEL : 042-984-4111 (代 表)